

# 令和4年度事業計画書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

## I. 事業計画概要

公益財団法人美術工芸振興佐藤基金は、「美術工芸を通じて国際間の相互理解の推進と我が国文化の発展に寄与する」、と言う目的の達成の為に事業を進めておりますが、昨年及び一昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い満足な事業が出来ませんでした。今年度は石洞美術館においては、美術工芸の新たな魅力の発信を行うとともに、地域の方々と連携して文化の発展に寄与する事業を行ってまいります。

## II. 事業毎の計画

### 1. 美術工芸等に関する資料の収集、保存、調査研究、展示及びそれらの資料を活用した事業

#### (1) 石洞美術館

##### a. 展示計画

今年度は3回の美術館での展覧会を開催すべく準備を進めてまいります。

「第50回伝統工芸日本金工展」5月21日～6月12日

公益財団法人日本工芸会との共催の展覧会で、本年度で50回を数えます。この金工展は、我が国に古くから伝えられている鑄金、鍛金、彫金等の金属工芸の保存と発展を期し、現代生活に即する作品を創り、金工の魅力を見出す機会になっています。この展覧会を通して、現代の金工の魅力に触れて頂きたいと思っております。

「朝鮮のやきもの」8月28日～11月27日

石洞美術館の所蔵品の多くは、石洞山人こと佐藤千壽初代理事長の収集したものです。その収集のきっかけになったものが高麗青磁の青磁碗で20代の頃に始まっています。以後、数々の朝鮮のやきものとの出会いがあつて纏まったコレクションになっています。

朝鮮のやきものは、中国の影響を受けながらも、独自に発展してきました。その特徴は、自然な造形美と柔らかな釉調、素朴で諧謔的な文様にあります。

室町時代後期以降、朝鮮のやきものは多くの日本人に愛され、茶の湯の器

として使われてきました。

本展では、館蔵の朝鮮陶磁器により、朝鮮のやきものの魅力を多くの方々に知って頂きたいと思います。

「古染付展」1月15日～3月31日

古染付は中国の明末期の天啓期（1621～1627年）を中心とした時代に中国の景德鎮民窯で焼造され日本に輸出された染付磁器です。その器形は志野や織部焼に似ているものも多く、中国に注文した品ではないかと考えられています。古染付には虫食いと呼ばれる釉薬の欠けがあったり、絵付けも自由奔放で粗雑な器に見えますが、図柄は素朴で味わい深く、日本人たちに大変愛されています。また、その文様には長寿や出世などの中国の人たちの願いも込められている事が窺われます。このような古染付の魅力に触れて頂きたいと思います。

b. 地域との連携活動

足立区内の他の施設と連携して石洞美術館の展示室でのコンサートを開催し美術館の新たな魅力を発信します。

c. 広報活動

①「ぐるっとパス」に参加し、美術館・博物館に興味を持っている人が来館するきっかけにします。

②足立区広報課において

石洞美術館での金工展開催中に作品解説の聴講希望者を募る予定です。

d. 資料の収集

魅力ある展示を行って行く為、資料収集方針にしたがって、資料収集を行います。

e. 資料の貸し出し

「首里城図」「琉球那覇市街図」

東京国立博物館では令和4年5月3日～6月26日まで、九州国立博物館では令和4年7月16日～9月4日まで沖縄復帰50周年記念展に出品する予定です。

イスラム陶磁

横浜ユーラシア文化館に所蔵品のイスラム陶磁を令和4年秋に出品予定です。

## 2. 美術工芸等の創作活動、調査研究及び普及活動に対する助成及び表彰事業

### (1) 助成事業

本年度は下記の研究に対して助成を行う予定です。

- a. 佐々木 類 ポーランド日本庭園での個展に向けての作品制作
  
- b. 松島さくら子 アジア漆の造形と祈り展 展覧会とシンポジウム

### (2) 表彰事業

淡水翁賞（若手金工作家奨励賞）

若手金工作家奨励のための淡水翁賞は、本年度で38回目を迎えます。

第38回淡水翁賞の募集は9月頃開始し、12月20日をもって締め切りとし  
選考の上、3月に授賞式を行います。